

山の手の手の絆

～みんなで支える学校 みんなで育てる子ども～

高岡第二小学校支援地域本部（土佐市）

■ 基本データ（平成28年度）

- 対象学校名 : 高岡第二小学校（全校児童数86名）
- 設置年度 : 平成20年度
- 協議会
名称 : 地域教育協議会（年4回開催）
委員数 : 27名
委員構成 : 課長補佐(1)・校長(1)・教頭(1)・PTA関係(3)・社会教育委員(2)・元小学校長(1)・民生児童委員(4)・児童クラブ会長(1)・放課後子ども教室支援員(1)・地域ボランティア(12)
- ※協議会は、運営委員会とは別に、地域の実情に応じて学校ごとに設置可能
- コーディネーター等 : コーディネーター3名
PTA関係者(1)、活動ボランティア経験者(1)、地域住民(1)
- ボランティア登録者数 : 124名（年間延べ1,000名）
- 地域連携担当教職員 : 無(管理職が対応)
- 支援日数 : 年間92日



<山の手子ども守り隊顔合わせ>



<読み聞かせ>



<地域教育協議会>

■ 本部設置までの経緯

従来から、「開かれた学校づくり推進委員会」を基盤に、地域の方が教育活動を支援する取組は行われていましたが、十数年前に宅地造成が始まり、校区内に新興住宅地が誕生するとともに、核家族化が進み、地域内の住人同士の結びつきや地域の教育力、コミュニティカの低下などが課題となりました。

そこで、平成20年度に『地域全体が一つとなり、学校と地域との連携体制を構築し、地域ぐるみで子どもを育てる』ことを狙いとして高岡第二小学校支援地域本部を設置しました。

■ 主な支援内容

- 学習支援（授業の補助）
昔遊びの指導、文旦学習、民謡学習、ミシン学習、地質学習、稲作、陸上・水泳・表現運動等
- 読み聞かせ(全学年対象に、毎週水曜日朝に実施)
- 登校の見守り(毎月11日に実施)
- 通学路の点検と関係機関への危険箇所改修の依頼
- マラソン大会やコース試走の見守り
- 山の手ふれあいフェスタの開催
- 山の手子ども便り（月1回発行）
- 環境整備
- 夏休み中の活動
 - ・16時頃より、3台のパトロール車で巡回
 - ・各地区ごとのラジオ体操

■ 特色ある取組 ～地域縦ぐるみでの活動～

山の手ふれあいフェスタ



高岡第二小学校では、学校・地域の連携を高めるため、地域のすべての団体・個人が協力する事業となることを目的とした「山の手ふれあいフェスタ」を開催しています。

ここでは、地域の子どもたちと大人が一堂にたどり、楽しく過ごすことを通じて地域の交わりを深めています。

「山の手ふれあいフェスタ」実行委員会を中心に準備

<土佐和紙飛行機大会>



<三世代交流もちつき>



山の手子どもBook隊

毎週水曜日の朝、全学年に読み聞かせをしています。



○今後計画している新たな取組

1 図書ボランティアの増員

- ・本の読み聞かせ → 朝の読書の時間または図書の時間を利用
〔現在8名で毎週1回、全学年に読み聞かせ〕
- ・ブックトーク、本の修繕や図書委員との交流

2 「山の手子ども守り隊」

- ・隊員の増加、子どもの安全に対する話し合いや登下校時のパトロール

3 花と緑の学校にしよう

- ・校庭の敷地を地域の方と整備〔花壇として利用〕

4 地域学習

- ・地域の探検
〔歴史・地域の素晴らしいところ〕

5 その他

環境整備

地域の高齢者やボランティアの方々による整備活動が行われています。



「ごみゼロの日」

山の手クリーン作戦。地域、保護者、児童みんなで、山の手地区の清掃活動を行います。

山の手子ども守り隊



毎月11日を活動日とし、子どもたちが安心・安全に登下校できるように見守ってくださっています。

地域の施設「作業所土佐」の協力を得て、水田づくりから稲刈りまでの米づくり体験をしています。



米づくり

■ 地域コーディネーターの活動

- ・ 体育館ステージ横に「学校支援地域本部室」を設置し、作業デスク、ボランティア名簿やこれまでの取組の資料等を棚に整理しています。
- ・ 体育館に設置することで、地域コーディネーターに鍵を渡して自由に活動に使っていただくことが可能となり、コーディネーターや地域の方が仕事の空いた時間帯を利用して集ってくださいます。
- ・ 主に、学校関係者・地域の団体等との連絡調整や、地域の協力者の確保、名簿登録、行事への支援者の配置、地域の実情に応じた活動プログラムの企画などを行っています。

(例) コーディネーターのある一日

- 9:00～ 管理職の先生と打合せ
- 9:20～ 本部室で書類作成
(山の手フェスタ開催に向けた、保健所への提出書類や開催要項、ポスター等を作成)
- 11:00～ フェスタ開催に向け、団体等への協力依頼等
- 13:00～ 午前中の業務の続きや準備物の整理等
- 14:00

【活動場所】

コーディネーターが集い、様々な支援内容のコーディネート企画などがスムーズに進んでいます。



<学校支援地域本部室>

<学校支援地域本部室入口>



【活動内容】

企画や運営は、多くの団体と連絡をとるため3名で進めていますが、調整業務や広報活動などはそれぞれの得意分野(パソコン、地域へ情報網等)を生かして、コーディネートをしています。

■ 活動を支える人材の確保

【コーディネーター、ボランティア、講師等】

高岡第二小学校支援地域本部の構成組織である10団体（山の手子ども守り隊・山の手地区通学路安全推進協議会・青少年育成土佐市民会議山の手地区協議会・山の手地区教育振興会・山の手地区自治会長協議会・船越白寿会・東灘あすなろ会・西灘わかば会・鳴川老人クラブ・交通安全協会土佐支部第5分会）の方々が、行政・学校・企業関係の退職予定者や退職者等の情報を共有し、それぞれに依頼するなどして支援者を募っています。

【組織的な連携体制】

毎月11日には、山の手子ども守り隊による登校安全指導を行った後、ボランティアの柱になっている12～13名の方が校長室に集い、気になる児童や人材確保の状況、学校と地域の協力体制、通学路の危険箇所などについて約1時間程度かけて話し合い、情報の共有化を図っています。話し合いの後、市役所に危険箇所をなくすための要請なども行っています。このように学校内のニーズを集約したり、地域の情報を教職員に伝えたりして、学校と地域が組織的に連携する仕組みを強化しています。



<校長室での話し合いの様子>

■ イベントカレンダー

- 4月 入学式、第一回協議会開催
- 5月 畝づくり、田植え、クリーン作戦
- 6月 水泳指導
- 7月 水泳指導、第二回協議会開催
- 8月 愛校作業、ラジオ体操
- 9月 運動会、稲刈り、第三回協議会開催
- 10月 陸上指導、地質学指導
- 11月 山の手ふれあいフェスタ
キャリア学習、地域文化学習
- 12月 マラソン大会、
第四回協議会開催
- 1月 ミシン学習、文旦収穫
- 2月 学習発表会における成果発表
- 3月 卒業式

【活動の様子】

ふれあいフェスタ開催に向け、4月から話し合いを始めていきます。のぼり旗を地域の方と小学生が協働して制作し、フェスタに華を添えています。

地域の特産土佐和紙を使った紙飛行機とぼし大会など、毎年盛大に行われています。



<のぼり旗づくり>

<山の手ふれあいフェスタ>



<活動内容の発表>

【学習発表会にて】

小学生の学習発表会の中で、参観に来られた地域の方々に対して、コーディネーターも高岡第二小学校支援地域本部の活動内容の発表を行っています。



☆企画・運営のポイント

ふれあいフェスタでは、高岡第二小学校の代々の卒業写真を集め、掲示を行いました。大変な作業になりましたが、参観された方に大変好評で、学校を中心にした地域の結びつきがさらに強まりました。

■ 広報活動

校区内の全家庭へのお便り配布を校長先生や区長さんが行っています。お便りに活動の写真も多く掲載することで、支援をいただいた方に好評をいただいています。次の活動への意欲の一つにもなっています。



■ ボイス（各関係者からのご意見を集めました）

コーディネーター

高岡第二小学校でコーディネーターを始めて6年経ちました。本当に、あっという間の6年でした。

コーディネーターの活動を通して、気づいた事があります。私は、コーディネーターとして、地域とのつながりを持ち、子どもたちとふれあい、学校を支援しているつもりでいたのですが、本当は、私の方が皆さん（地域・学校・子どもたち）に、助けられ、支えられていたという事です。

皆さんから、「中山さん～。中山さん～」と頼りにしていただくことで、私自身、成長させてもらっていたのです。そして何より、コーディネーターとしての生き方がとても楽しく、日々充実しています。

学校にいる時に、よく皆さんから「中山さん、いつもご苦労様。大変やね！」と声をかけていただくのですが、私自身、本当に楽しんでやっているので、何一つ大変と思った事はありませんでした。

この山の手仲間と共に、コーディネーターとして、より一層頑張っていきたいと思います。

子どもたち

- ・ぼくは、山の手ふれあいフェスタが好きです。自分たちでお店もできるし、紙飛行機飛ばしも楽しみです。自分たちの夢を紙風船に書いて飛ばすのも、どこまで飛んでいくかわくわくします。
- ・わたしは水曜日の読み聞かせを楽しみにしています。山の手ブック隊の人が読んでくれる本がおもしろくて、自分でも読んでみたくなります。読み聞かせのおかげで、本が好きになりました。
- ・山の手子ども守り隊の人とあいさつをすると元気になります。低学年のころは、あいさつをするのがはずかしかったけど、今では顔も覚えてもらって、自分からあいさつをするようになりました。

学校長

- ・地域の方が学校の教育活動に関わる事で、子どもたちに多様な体験の機会が増えました。
また、地域の方々と同じ時間を共有することで、規範意識やコミュニケーション力の向上につながっています。
- ・山の手子ども守り隊をはじめ多くの大人に子どもたちを見守っていただく事で、よりきめ細かな教育ができます。地域住民の方の力を得ることで、教員が教育活動に、より一層力を注ぐことができている。